第３学年　道徳学習指導案

指導者　教諭　柴田　良輔

１　日　時　平成２８年７月１日（金）公開授業②　第２校時

２　学　級　上田中学校３年２組　男子１９名　女子１７名　計３６名　南校舎２階３年２組教室

３　主　題　差別を許さない心「公正公平，差別・偏見の克服」４－（３）

資料名　「卒業文集最後の二行」（出典　『中学道徳３　明日をひらく　岩手県版』東京書籍）

４　主題について

内容項目４－（３）は「正義を重んじ，だれに対しても公正，公平にし，差別や偏見のない社会の実現に努める。」ことを目指している。公正，公平にするとは，私心にとらわれて事実をゆがめることや，偏ったものの見方・考え方を避け，社会的な平等が図られるように振る舞うことである。しかも，人は，他の人とのかかわりにおいて生きるものであり，それゆえ，よりよく生きたいという願いは，差別や偏見のない社会にしたいという要求につながる。したがって，よりよい社会を実現するためには，自他の不正や不公平を許さない断固とした姿勢と力を合わせて積極的に差別や偏見をなくす努力が重要である。とりわけ，中学校の段階ではまずは自己中心的な考えから脱却し，「見て見ぬふりをする」，「避けて通る」という消極的な立場ではなく，断固として不正や不正な言動を憎む，たくましい態度を育てることが求められる。

本学級は，物事を考える判断基準として正しさを基にする生徒が多い。しかし，理想を求める気持ちや正義感が強くなっている反面，周囲の目を意識するあまり，何も言えなくなってしまうことがある。そのため，不正，不公平な行動を目の当たりにしたとき，内心ではいけないと思っていてもそれを，勇気を出して止めることには消極的になってしまうときがある。また，表面上は偏見がないように見えるが，席替えの際に特定の生徒と近くになりたがるなど，差別につながりそうなことも見受けられる。

本資料は，差別や偏見がいかに人間を傷つけるものかについて考えることができる。主人公の「私」は小学校６年のときに仲間と共に，貧しさや身なり，先生に告げ口しないことなどを理由にＴ子を差別する。だが，卒業文集最後の二行を読み，初めて自分が行っていたことの卑劣さ，酷さなど自覚し，枕を濡らす。そして，３０年経ってもいじめを後悔し，涙している。深く考えずにいじめている小学生時代と，いじめの卑劣さに気付いた３０年後を比べることを通して，差別や偏見がいかに人を深く傷つけるか，そしていじめを止められないことがいかに後悔につながるかについて考えさせたい。そして，だれにとっても安心して暮らせる社会の実現と共に，差別や偏見のない社会の実現にも努めるような生き方を見出させるために，ダメなことは断固としてダメだと言う態度，そして差別を生む自分を守ろうとする弱い心と向き合わせたい。

５　本時の評価

道徳的心情	だれに対しても公正，公平にし，差別や偏見のない社会の実現に努める姿を賞賛的にとらえている。
道徳的判断力	だれに対しても公正，公平にし，差別や偏見のない社会の実現に努めることの大切さを理解している。
道徳的実践意欲・態度	自他の不正や不公平を断固として許さず，差別や偏見のない社会の実現に努める姿勢と生き方を実践しようとしている。 【生徒の記述例】 「私」がＴ子さんにとった行動は，決して許されないと思う。見た目や生活環境から判断して，ありもしないことを理由に大勢で差別しているからです。また，「私」が三十年経っても悔やんでいることにいじめの虚しさ，悲しさを強く感じました。ダメなものはダメだと言うこと，差別につながる弱い心と向き合うことから始めて，周りの人みんなが安心して暮らせるような社会にしたいです。

６　本時の指導構想

（１）本時のねらい

自他の不正や不公平を断固として許さず，差別や偏見のない社会の実現に努める姿勢と生き方を育む。

（２）「論理の意識化を図る学習活動」にかかわって

【考えがいのある課題】

考えがいのある課題を「差別や偏見のない社会の実現には何が必要か」とする（※　５　差別や偏見のない社会の実現には何が必要か。）。本授業では導入部分で提示することはせず，資料をもとに授業を展開し，最終的に生徒に価値をつかみ取らせたい。

課題解決の基となるのは，資料とこれまでの生活経験である。主人公の気持ちに寄り添わせながら，展開後半で資料から離れ，価値の把握につなげたい。

【「論理の思考型」の使用】

授業を通して，すべての思考型を用いて考えさせたい。

ただし，第二発問の主人公に対しての判断場面では，類推思考，類別思考を用いて考えさせたい。（２　土下座して謝りたいと思ったがそうはせず，それどころか「ほんとのことをいわれたから向きになるのだ」と胸を反らせた「私」の気持ちをどう思うか。）。根拠をもとに理由づけしながら発言させたい。

【かかわり合い】

かかわり合いは，教師を通しての個と全体のかかわりで授業を展開する。個人の意見を全体で発表し，その意見に対する考えを発表させることでかかわり合いを仕組んでいきたい。また，他の意見を自分の意見と比べて，関連性があるか，別の考えであるかを判断し，生徒同士のかかわり合いを意識させたい。

【自己評価活動】

終末において，自己評価活動を行う。（※価値について考えたことを記入，発表をする。）本時の流れを振りかえり，「『私』や周りの悪童たちがＴ子さんにとった差別的な行動は，決して許されない」ことや「生活環境や身なりからの偏った考えから始めたいじめを３０年経っても後悔している」ことに気付かせ記述させたい。また，「私は正しいと思ったことを信じ，決して差別を許さない姿勢をもち続けたい。」など，今後の道徳的実践意欲や態度にもつながる記述をさせたい。

7　本時の展開

段階	過程	学習活動	期待する生徒の反応	指導上の留意点
導入８分	状況の把握	※　なぜ，いじめが起こるのか聞く。 ※　主人公について確認する。 ※　資料の範読。	・自分の現状にイライラしているから。 ・いじめることで，相手より強い立場に立ちたいから。 ・からかいやいじりがエスカレートしてしまうから。	・いじめが許されないことだという前提で，資料に対する共通理解をさせる。
展開 ３０分	課題意識を高める 価値の追究 変容契機をとらえる 価値の把握 自己評価活動	※　あらすじの確認。 ※　主人公への感想を求める。 １　「私」や仲間は，どんな気持ちからＴ子さんのことを口汚くののしったのだろうか。 ２　土下座して謝りたいと思ったがそうはせず，それどころか「ほんとのことをいわれたからむきになるのだ」と胸を反らせた「私」の気持ちをどう思うか。 【類推思考，類別思考】 ３　卒業文集最後の二行を読んで，「私」が泣いてしまったのはどんな思いがこみ上げてきたからか。 ４　「私」が三十年あまり過ぎた今でも，Ｔ子さんのことを思い出して涙をこぼすのはどんな思いからか。	・自分達より貧乏だから。 ・着ている服が汚く，魚臭いから。 ・大勢で一人をいじめることで優越感に浸れるから。 ・先生に告げ口をしないので安心してののしれるから。 ［謝りたい］ ・カンニングを人のせいにした。 ・集団でののしった。 ・普段からいじめている。 ［謝れない］ ・今さら後には引けない。 ・カンニングがばれる。 ・自分がいじめられる。 ［悪い］ ・カンニングをしたのは自分なのに，人のせいにして謝れないのは悪い。 ・集団で一人をけなすのは悪い。 ［仕方ない］ ・やったことは当然ひどいが，普段からけなしている手前，後には引けず謝れないから，仕方ない。 ・カンニングをしたことがばれてしまうから，仕方ない。 ・いわれのないいじめにずっと悩んでいたＴ子さんに気付き，自分のやったことの酷さに気付いたから。 ・Ｔ子さんの自分ではどうしようもできないことで差別される苦しみを全くわかっていなかったから。 ・汚い服を着ているだけで，こんなにも傷つけてしまったから。 ・Ｔ子さんに心の傷を負わせてしまったまま３０年経ったという後悔。 ・謝ることができなかった今の自分の心が３０年経っても苦しい。 ・Ｔ子さんを先頭に立ってけなしていたのは自分で，自分の罪を押しつけて泣かせたのは自分だという後悔。	・「私」と仲間が行うののしりの理由が偏見に満ち，弱い立場にいる人を多勢で中傷していることの卑劣さに気付かせる。 ・発問の前に謝りたい理由，謝れない理由を挙げさせる。その上で良心の呵責に悩むが，それでも謝れない心の弱さや多勢が正義となる恐ろしさを押さえる。 ・いじめを受けていたＴ子さんが偏見から受けていた心の苦しみ，痛みに加え，それを理解できなかった自分の浅はかさを押さえる。 ・いじめは，いじめられた人だけではなく，いじめた人にとっても取り返しのつかない行為だということを押さえる。
終末 １２分		※　価値について考えたことを記入，発表 【自己決定】	「私」がＴ子さんにとった行動は，決して許されないと思う。見た目や生活環境から判断して，ありもしないことを理由に大勢で差別しているからです。また，「私」が三十年経っても悔やんでいることにいじめの虚しさ，悲しさを強く感じました。ダメなものはダメだと言うこと，差別につながる弱い心と向き合うことから始めたいです。	【道徳的実践意欲・態度】 自他の不正や不公平を許さない断固とした姿勢と生き方を実践しようとしている。

資料分析表

主なる場面	主人公の心の動き	指導の意図	期待する生徒の反応	発問
「私」が悪童たちと一緒にＴ子の身だしなみや生活環境から口汚くののしる場面。	・自分達より貧乏で着ている服が汚いから，いじめて優越感に浸りたい。 ・自分ひとりではないから，問題ない。 ・Ｔ子は先生に告げ口しないから安心して口ののしれる。	「私」と仲間が行うののしりの理由が偏見に満ち，弱い立場にいる人を多勢で中傷していることの卑劣さに気付かせる。	・自分達より貧乏だから。 ・着ている服が汚く，魚臭いから。 ・大勢で一人をいじめることで優越感に浸れるから。 ・先生に告げ口をしないので安心してののしれるから。	「私」や仲間は，どんな気持ちからＴ子さんのことを口汚くののしったのだろうか。
土下座して謝りたい衝動にかられたが，それどころか「ほんとのことをいわれたからむきになるのだ」と胸を反らせた。	・カンニングをした罪悪感がある。 ・みんなが責めるから自分も責めていい。 ・今まで散々いじめてきたから，今さら謝れない。 ・自分のせいで濡れ衣を着せられて謝りたいが，自分のカンニングがばれてしまうのが恐い。	発問の前に謝りたい理由，謝れない理由を挙げさせる。その上で良心の呵責に悩むが，それでも謝れない心の弱さや多勢が正義となる恐ろしさを押さえる。	・カンニングをしたのは自分なのに，人のせいにして謝れないのは悪い。 ・集団で一人をけなすのは悪い。 ・やったことは当然ひどいが普段からけなしている手前後には引けず謝れないから仕方ない。 ・カンニングをしたことがばれてしまうから，仕方ない。	土下座して謝りたいと思ったがそうはせず，それどころか「ほんとのことをいわれたから向きになるのだ」と胸を反らせた「私」の気持ちをどう思うか。
Ｔ子さんの書いた卒業文集の最後の２行を読んで涙する場面。	・Ｔ子さんが自分たちのやったことに心を苦しめていたことを初めて知った。 ・身なりが汚いというだけで，こんなにも傷つけてしまった。	いじめを受けていたＴ子さんが偏見から受けていた心の苦しみ，痛みに加え，それを理解できなかった自分の浅はかさを押さえる。	・ずっと悩んでいたＴ子さんに気付き，自分のやったことの酷さに気付いたから。 ・Ｔ子さんの苦しみを全くわかっていなかったから。 ・汚い服を着ているだけで，こんなにも傷つけてしまったから。	卒業文集最後の二行を読んで，「私」が泣いてしまったのはどんな思いがこみ上げてきたからか。
三十年あまりが過ぎた今でも，私はＴ子さんのことを思い出して，涙をこぼしてしまうのである。	・当時のＴ子さんの気持ちを考えると，どんなに辛かったろうかと胸が痛む。 ・Ｔ子さんの気持ちを考えもせず，一方的にいじめていた自分が恥ずかしい。 ・Ｔ子さんをここまで追い込んでいたのが自分の卑怯さだと思い知った。	いじめは，いじめられた人だけではなく，いじめた人にとっても取り返しのつかない行為だということを押さえる。	・Ｔ子さんに心の傷を負わせてしまったままだという後悔。 ・謝ることができなかった今の自分の心が苦しい。 ・Ｔ子さんを先頭に立ってけなしていたのは自分で，自分の罪を押しつけて泣かせたのは自分だという後悔。	三十年あまり過ぎた今でも，Ｔ子さんのことを思い出して涙をこぼすのはどんな思いからか。

盛岡市立上田中学校　３年道徳ワークシート

卒業文集最後の二行

【卒業文集最後の二行を読んで，「私」が泣いてしまったのはどんな思いがこみ上げてきたからか。】

【　今日の授業で学んだこと　】

・今日の授業を通して考えたことや感じたこと。

今日の授業で，すばらしいと思ったのは，誰のどんな発言ですか。

３年（　　）組（　　）番　　氏名